

今日のキーワード 今年を振り返るキーワード④「AI（人工知能）」（日本）

「AI」とは、英語のArtificial Intelligenceの略で、日本語では人工知能と訳され、1950年代から世界的に研究が進められています。現在、「AI」は“ディープラーニング”と呼ばれるコンピューターに学習能力を獲得させる手法・技術によって、飛躍的に進歩を遂げつつあります。今年、安倍政権は新たな成長戦略として「AI」やロボットを積極的に活用した第4次産業革命を掲げ、社会の変革と産業構造の転換を図っています。

ポイント1

最近の「AI」の進化の鍵は“ディープラーニング”

「AI」が経験を通して自ら知識を習得するようになった

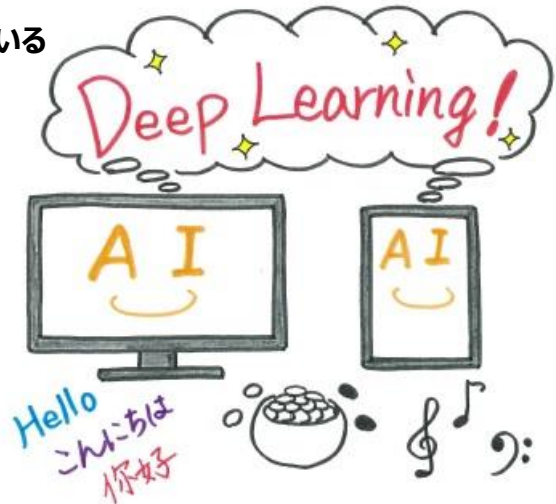
- 今年3月、「AI」を搭載した囲碁プログラムが、韓国のプロ棋士との対戦で勝利しました。これまでも、「AI」がチェスなどのゲームで人間に勝利することはありましたが、囲碁はその差し手が天文学的な数字になるため、人間に勝利することは難しいと思われていたことから、この勝利は世界を驚かせました。「AI」が大きく進化した背景には、“ディープラーニング”（深層学習）と言われる人間の神経構造を模した学習法の開発があります。これまでの「AI」は、人間が情報や条件設定などを入力する必要がありました。それが、最新の「AI」では、情報を処理する過程で、人間でいう知識を自ら習得する機能を持つことが出来るようになりました。また、人が疲労や精神状態によりムラが出来てしまう作業も、「AI」であれば一定のパフォーマンスが期待できます。

ポイント2

代表例は自動運転システム

買い物のアドバイスなど活躍の場は広がっている

- いま、「AI」の進歩により、最も進展が期待されていることのひとつが車の自動運転システムです。自動運転車にはたくさんのカメラやレーダーが取り付けられ、周囲を感知し、安全な運転が期待されています。将来的には、自動運転車によるタクシーやカーシェアなど、車の利便性が増すと見られています。
- 自動運転システムの他、オンラインショッピングなどにおいて、「AI」が顧客の行動パターンなどの情報を収集・整理をして最適なアドバイスをすることや、スマホなどでの音声認識、機械的な言語の翻訳機能、音楽の作曲支援など、「AI」の進歩により、その活躍の場はますます広がっています。



今後の展開

安倍政権の成長戦略の後押しなどもあり、「AI」市場は拡大へ

- EY総合研究所の予想では、今後の技術の成熟や、安全性の向上、コスト削減などにより、「AI」の国内市場規模は、運輸、製造、卸売・小売業などを中心に、2015年の3兆7,450億円から、2030年には86兆9,620億円に拡大すると試算されます。安倍政権は、新たな成長戦略として「AI」を活用した第4次産業革命の推進を掲げており、今後とも生活の様々なシーンで「AI」の活躍を感じることがありそうです。

ここもチェック!

2016年12月28日 今年を振り返るキーワード③ 日銀の「新たな金融政策」（日本）
2016年10月20日 いま注目のAI（人工知能）どんな分野での拡大が期待されているの？①

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。